

栃木東中「東中だより」1月号



【学校教育目標】<生きる力の育成>

- よく考え、自ら学ぶ生徒
- 豊かな心と強い意志をもった生徒
- 健康で、自他の生命を大切にする生徒

【目指す学校像】<経営の指針>

竹のように、誰もが“いちばん天を目指す”東中學舎

“伝統”を受け継ぎ、“志”を引き継ぐ

1月8日(水)、“生徒会新旧役員の引継式”を行いました。池田会長から高江柄新会長に校旗が手渡され、「東中丸」が平成26年という大海に向けて船出をしました。

旧役員の皆さんには、本当によく頑張ってくれました。心から感謝します。新役員の皆さん、よろしくお願ひします。

学年	旧 役 員	役 職	新 役 員	学年
3	池田 晴君	会長	高江柄友乃さん	2
3	新井 泰佳さん	副会長	小浪 健弘君	2
2	関口 真人君	副会長	石原 悠翔君	1
3	小池 玲央君	書記	関口杏梨紗さん	2
3	高村 奈摘さん	書記	大野 笑奈さん	2
2	高江柄友乃さん	書記	須賀 俊介君	1
2	小浪 健弘君	書記		
3	稻田 巧典君	会計	柿沼うららさん	2
3	久我 星奈さん	会計	布川 里和さん	1
2	大野 笑奈さん	会計	池田 彩さん	1



新旧会長 校旗の引継



旧役員のあいさつ〔感謝〕



新役員の任命〔自覚と意欲〕 高江柄新会長のあいさつ
※生徒一人一人の会員としての自覚が、役員の努力を支えています。



第三学期 始業式 校長講話

1月8日(水)

私個人の今年の目標とする四字熟語は、『虚心坦懐』です。「虚心」とは、先入観を持たないで、素直な心でいること。「坦懐」とは、心の平らかなこと。胸にわだかまりのないこと。

つまり、「心に何のわだかまりもなく、さっぱりしていて穏やかな気持ち。また、そうした心で物事に臨むさま。」の意味です。

校長としての目標を四字熟語で表すと、『戮力協心』です。

「戮力」とは、力を合わせること。「協心」とは、心を合わせて、助け合うこと。

【目指す生徒像】<東中之心得>

- さわやかで、明るいあいさつができる、仲良く活動する。
- 忍耐強く、黙って清掃や作業に取り組む
- 目的をもって、いちばんに学習・運動に励む
- 気品があり、場に応じた正しい言葉遣いができる。

平成26年1月10日(金)発行 文責: 石嶋和夫

みんなで力を合わせて、今年度の総仕上げを

3学期の学級委員長・副委員長を任命しました。みんなで心を一つに協力し合って、“有終の美”を飾りましょう。

学級	学級委員長	副委員長	四字熟語
1-1	野原 幸希君	小谷野真希さん	心機一転
1-2	毛塚 勝良君	福富 千瑞さん	報恩謝徳
1-3	谷中遼太郎君	矢部 千夏さん	剛毅果斷
1-4	牧野 励君	大塚 亜海さん	十人十色
2-1	金子 拓真君	稻村 理子さん	玉石混淆
2-2	関口 真人君	瀧谷 裕花さん	勇猛精進
2-3	武井 梨紗さん	永井 摩於君	公明正大
3-1	久我 星奈さん	小池 玲央君	全員感謝
3-2	池田 晴君	志鳥 華帆さん	最高傑作
3-3	大森実彩希さん	稻田 巧典君	有言実行
3-4	高村 奈摘さん	高田 真智君	全員笑顔
3-5	大木 大作君	中村 竜也君	獅子奮迅

※ 各学級委員さんに、3学期の目標とする“四字熟語”を選んでもらい、その理由を発表してもらいました。

その結果、各クラスが学期ごとに目標とした“言葉”がそろいました。以下のとおりです。

	1学期	2学期	3学期
	一文字	二字熟語	四字熟語
1年1組	夢	結束	心機一転
1年2組	真	團結	報恩謝徳
1年3組	輝	活躍	剛毅果斷
1年4組	絆	團結	十人十色
2年1組	心	自覚	玉石混淆
2年2組	全	漸増	勇猛精進
2年3組	輝	必笑	公明正大
3年1組	輝	挑戦	全員感謝
3年2組	石	天下	最高傑作
3年3組	卓	前進	有言実行
3年4組	最	晴春	全員笑顔
3年5組	楽	協力	獅子奮迅

※幕末から明治にかけて言葉が人々を動かしました。例えば、「尊王攘夷」等。今のは、言葉では、なかなか動きません。でも、自分らしく生きるには、座右の銘ともいいくべき、指針となる言葉が必要です。

つまり、「全員が、心を一つに、協力し合って物事に取り組むこと。」です。

3学期に、1年生は「職場見学」。2年生は「立志スキー宿泊学習」。3年生は「卒業式」があります。もちろん、「卒業式」は、1・2・3年生全員で作り上げる式ですが。

それぞれの活動において、全員が、心を一つに、協力し合って取り組んでください。

また、ある人に言わせると、「入試」も個人戦ではなく、団体戦だそうです。一人一人が、個人で「入試」という試験に立ち向かうのではなく、学級・学年のみんなで、互いに励まし合い、支え合って「入試」に挑戦し、みんなで乗り越えようというのです。頑張りましょう。

「午年」にちなんで、「馬」に関するお話を

じんかん ばんじ さいおう
人間 万事 塞翁が馬 ※平成23年度『みとせ』に掲載
〔人の世は、不幸になるかと思うと幸せになったり、また、その逆もあったりするので、予想がつかない。〕

昔、中国の北方の国境の塞〔とりで〕近くに、占いの得意な翁〔おじいさん〕が住んでいました。

ある日、その翁の馬が、国境から北へ逃げ出してしまいました。まわりの人々が「残念ですね。」と、慰めに行くと、翁は「いや、このことが、良いことになるかもしれないよ。」と言いました。

それからしばらくして、逃げ出した馬が、北方の素晴らしい名馬と一緒に連れて戻ってきました。まわりの人々が、「良かったですね。」と、お祝いに行くと、翁は「このことが、災いになるかもしれないよ。」と言いました。

しばらくすると、翁の息子が、その名馬から落馬して脚の骨を折る重傷を負ってしまいました。

まわりの人々が、かわいそうに思ってお見舞いに行くと、翁は「いや、このことが、福となるかもしれないよ。」と言いました。

それから一年後に、北方の異民族が、国境の塞を襲撃してきました。塞近くに住む若者たちは、激しく戦い、何とか塞を守ることができましたが、多くの若者が死んでしまいました。しかし、翁の息子は、落馬したために脚が悪かったので、兵役を免れ、戦いに行かずにつみ、無事でした。



馬に関する「ことわざ」や「熟語」、「慣用句」

「馬耳東風」 ※「東風」とは、春風のこと。

暖かい春の風が馬の耳元に吹いてきても、馬は何も感じないことから、人の意見や批判などを心にとめず、聞き流すことのたとえ。

「馬齢を重ねる」

「馬齢」とは、自分の年齢を謙遜して言う言葉で、たいしたものせず、ただ無駄に年をとることのたとえ。

「馬脚を現す」

「馬脚」とは、芝居で馬の足に扮する役者ことで、馬の足を演じていた役者が、うつかり自分の姿（足）を見せてしまうことから、隠していた本来の姿が表にあらわれること、化けの皮がはがれることをいう。

りゅうめ つまず
「竜馬の躊躇」 ※「竜馬」とは、足の速い名馬のこと。

すば抜けですぐれた馬でも、つまずくことがあることから、どんなにすぐれた人でも、ときには失敗することがあること。

ちくば
「竹馬の友」 竹馬（たけうま）に乗って一緒に遊んだ幼い頃からの友達、幼なじみのこと。

※ 人間の生活や軍事上（昔は）、とても役立つ動物であった「馬」に関する言葉の多くが、あまり好ましくない意味で使われていることに驚きました。

「生活や人権に関するアンケート」の結果です

12月上旬に全生徒を対象に、以下のような「アンケート」【記名式】を実施しました。※回答生徒数305名。小数第1位を四捨五入。未記入があるため、100%になりません。

- ① 学校生活は、楽しいですか？
ア とても楽しい [40] イ 楽しい [53]
ウ あまり楽しくない [5] エ 楽しくない [1]
- ② 学校生活の中で、心配事や悩みはありますか？
ア ある [10] イ ない [90] +記述
- ③ あなたは、最近、いじめを受けたことがありますか。
ア ある [0] イ ない [100] +記述
- ④ あなたのまわりで、最近、いじめで困ったり、悩んだりしている人がいますか。
ア いる [1] イ いない [99] +記述
- ⑤ 部活動は、目標をもって楽しく取り組んでいますか？
※ 1・2年生のみ、回答
ア とても楽しい [53] イ 楽しい [41]
ウ あまり楽しくない [5] エ 楽しくない [1]
- ⑥ 自分の短所も含めて、自分のことが好きですか？
ア とても好き [5] イ 好き [44]
ウ あまり好きではない [38] エ きらい [12]
- ⑦ 自分の進路を考えたとき、将来についての夢や希望がありますか？
ア たくさんある [19] イ ある [54]
ウ ほとんどない [22] エ ない [5]
- ⑧ 学校や地域で、だれに対しても、きちんとあいさつができていますか？
ア 自分からする [70]
イ 相手があいさつすればする [21]
ウ 特定の人にだけする [8]
エ ほとんどしない [1]
- ⑨ 自分が悪いことをしたと思ったとき、素直にあやまれますか？
ア 素直にあやまれる [77]
イ 親や先生、友達に言われれば、あやまる [11]
ウ なかなかあやまれない [11]
エ 自分が悪いとわかっていても、あやまれない [1]
- ⑩ いじめに対して、どう思いますか？
ア どんな理由があろうと、いじめる側が悪い [56]
イ いじめる側が悪いが、いじめられる側にも原因がある場合は、仕方がないと思う [44]
- ⑪ ある人を自分より劣っていると考えて、その人をばかりしたり、からかったりしたことがありますか？
ア 1回もない [30] イ 1~3回あった [38]
ウ たまにある [23] エ 時々ある [9]

⑩のイ「いじめる側が悪いが、いじめられる側にも原因がある場合は、仕方がないと思う。」という選択肢は、「いじめ」について生徒たちに深く考えてもらうために、揺さ振りをかけたものです。

たとえ、どんな理由があろうと、人間関係のトラブルは、正しい方法で解決すべきであり、「いじめ」という不当な差別をしてよい理由にはなりません。

自分を相手の立場に置き換えて、同じことが言えるか、できるかが、「公平・公正」の基準だと思います。